

平成29年度第1回 恵那市男女共同参画プラン推進委員会【要約】

日時：平成29年5月8日（月）午後1時30分～午後3時20分

場所：恵那市役所 西庁舎 災害対策室B

1. 開会

2. 会長あいさつ

3. 議事

- (1) 昨年度の取り組み及び目標指数の達成状況について【報告事項】
- (2) 今年度の取り組みの方向性及びスケジュールについて【協議事項】
- (3) (仮称) まちなか市女性起業ブースについて【協議事項】
- (4) その他

4. 閉会

■出席委員

坪井弥栄子会長、伊藤正明委員、勝富子委員、鈴木栄子委員、吉村綾子委員、堀有希委員、村松訓子委員、三浦みゆき委員、保方多津美委員、奥村ひとみ委員、山田英明委員、足立伊公子委員、松永晴美委員、松尾かおり委員

■欠席委員

亀井邦子委員、渡辺熙之委員、佐藤暁彦副会長

1. 開会

■事務局(司会):平成29年度第1回恵那市男女共同参画プラン推進委員会を開会する。
本推進委員会の事務局を、昨年度は市長公室の総合戦略・人口減少対策チームが担当していたが、本年度、組織再編に伴い、まちづくり企画部企画課が担当することとなった。課長以下3名の職員は変わらないが、部長が変わったので、本日、部長よりあいさつを兼ねた自己紹介をさせていただく。

■まちづくり企画部長:まちづくり企画部の服部と申します。よろしく申し上げます。
昨年度までは、まちづくり推進部で振興事務所を含めた地域振興と教育委員会の補助執行で生涯学習や文化、スポーツを担っていた。今年からは組織改編により企画が加わり、教育委員会の補助執行を教育委員会へ返した。

第2次男女共同参画プランは今年が2年目になる。こういったプランや計画は市の様々な分野で作成しているが、作成する事自体が目的になりがちで進行管理がおろそかになってしまうという事が見受けられる、そういったところにおいて、本年度は2年目ということで、本日は進行管理の部分と皆様からの忌憚のないご意見を頂きながらこのプランが着実に実施していけるようご協力を賜りますようお願い申し上げます、あいさつとさせていただきます。本日はよろしくお願い致します。

2. 会長あいさつ

■会長:連休明けのお忙しい中ご出席頂きありがとうございます。プランの推進も2年目を迎えた。今まで行政で関連する部署と一緒に一つずつ着実に進めていただいたものもある。プランの作成をして推進していく委員会だが、行政で各部署と各委員会等で一緒になって男女共同参画プランというものを成し遂げていただいている。今日も沢山の課題があるが、その中で私達がやっていかなければならない事は、多くの課題を頂く中でどれだけ推進委員として協力ができるかとか、どれだけそういった事に対して意見が言えるか。聞きっぱなし、言いっぱなしではなく、自分の中で消化しながらどうやったらこれを推進するのに役に立つのか。そういった思いを皆で共有しながら会議を進めていきたいと思う。よろしく申し上げます。

3. 議事

■事務局(司会):本会議は恵那市審議会等の公開に関する指針に基づき公開となる。議事の進行については、恵那市男女共同参画プラン推進委員会設置要綱により坪井会長にお願いする。よろしくお願い致します。

(1) 昨年度の取り組み及び目標指数の達成状況について【報告事項】

- 事務局：〔資料により説明〕
- 会長：全体を通して質問はないか。紙芝居の進捗状況はどうか。
- 委員：まだ少し中身を検討している。
- 会長：よろしくお願ひします。こういうものを持って、こども園や学童保育など色々な所で啓発できるといいと思っている。
- 委員：目標は達成できたが、周知徹底についてまだバラつきがあるのではないか。先日、地区の老人会の総会へ民生委員の立場で出た際に、時間を頂いて男女共同参画の事などを話した。その際、男女共同参画とは何だと。広報を出しても、見る人が少ないのではないかという事をつくづく感じた。「昔からこのようにやってきて、今更関係ないわ」という言い方が強い。その辺りをどうやって徹底していくべきかと、機会のある度にそういう話をしていくべきだとは思いますが、1人で言ってもなかなかそれが伝わらない。それは家庭の中も同じではないかと思うが、今の若い世代は男女共同参画の考え方はかなり進んでいると思う。しかし私達の世代、70歳ぐらいから上の世代では非常に意識が低いと感じた。今後期待したいのは、学校教育からそういう事を伝えていけばすごく変わっていくと思うので、各学校での成果を期待したい。もし、ホームルームでも何でもそういう機会があるなら顔を出して意見を聞いてみてもいいのではないかと思う。
- 会長：全ての人に男女共同参画を分かってもらおうというのはすごく難しいと思う。ある程度の年代以上の人達にはあきらめもあるが、すごく発展的な人は、70代、80代になっても男女共同参画をやらないといけないと思っている。一般の70代、80代の人に男女共同参画を分かってもらおうとしても難しいので、こうした取り組みをしているという事を理解してもらっただけでもいいのかと思う。かえってもう少し若い一番大事な中年、中高年から下の年代に対して進めていくということも大事ではないかという気もしているが、どうか。
- 委員：中高年以上の方が多いので、そこをとり組まないとも目標指数の達成状況が下がってしまう。そういった面では、その年代をあきらめる事は悩ましい。
- 委員：資料1の意見の区分欄で、「必要性を検討」から「重要性が高い」までであるが、「重要性が高い」の区分にあるもので実施状況が実施になっていないものが多々ある。しかし、左側のプランに記載の取組・その他の取組で実施済みとなっているのでその辺りの整合性がどのように取られているのか。実際に取り組んでいるのか、取り組んでいないのか、やはり取り組んでいかなければいけないのかを見やすく整理した方が、取組みの状況が分かりやすいし、これは必ずすぐに取り組まないといけないという事がすぐ見て取れるのではないか。

- 会長：実施状況に、「すぐに取り組むこと」と「取り組むこと」など2つか3つに分けて取り組みのルールを、課題としては上がっているが取り組まなくていいのか、などが分かるといい。重要性が高いけれど、すぐ取り組めるのかどうかということがある。
資料1の3ページのワーク・ライフ・バランスの部分で、市役所で行った夕活の結果はどうだったか。職員の意見は。ただ、そういう風になったからやったのか、そういう事をやって良かったという結果が出たのか。
- 事務局：総務課でアンケートを行って結果が公表されていないが、今年から8の付く日が増えたのでおそらく結果としては良かったのではないかと思う。一度確認してみる。
- 会長：次回以降の会議でいいので、アンケート結果を教えてください。
- 委員：一般企業でこれに取り組もうというのはなかなか難しいと思うので、市が率先してやってみて、こういう結果になっていましたという事が分かれば、企業へのPRの機会になると思う。
- 委員：どういう所が良かったとか、そういう中身の部分を知ることによって全体が動くという事もあるので、そういう部分も知りたいと思う。
- 委員：2－(2) 就労の場における男女平等の確保の、企業訪問における啓発で2社啓発をされたという事だが、内容はどうであったか。
- 事務局：2つの方法で企業へ訪問した。1つ目で、商工課の企業訪問に同行した際は、企業側は総務課長が1名で対応して下さった。訪問先は【〇〇(事業所名)】であったが、男女共同参画という言葉自体は全く馴染みがないという事であった。市からは、パンフレットや広報で男女共同参画やプランの概要を説明し、男女共同参画の市政番組のDVDをお渡しした。商工課が企業の状況を聴き取った後で、男女共同参画についてお聞きした。全体的にとっても優良な企業であった。職場の男女割合は同業者では7、8割が男性であるところがここではほぼ同数であった。女性リーダーづくりの面では、企業の年度目標を立てるにあたって職員が全員参加で行っていたり、人材育成の面では、研修の機会が充実していて、研修へ行く費用や試験の費用や勤務扱いなども実施されている。他にも色々な取り組みをされていた。男女共同参画という事自体はご存知ではなかったが、男女共同参画のような考え方でやっていかないと企業として立ち行かなくなるという事でやってみる。今後、企業の方同士の交流の場を設けたいというお話をした際には、出ていただけるようだったので、今後も関わりを持たせていただきたいと思っている。
- 事務局：もう一つは、【××(事業所名)】。今年から企画課でマイナンバー制度の仕事をもっているが、その会社が5月2日に社員研修の一環としてマイナンバー制度の

出前講座に来てくれということだった。もともと会社内で年に4回ほど何らかの社員研修をしなければいけないという事になっているそう。そこで、マイナンバーの説明と合わせて男女共同参画を説明させてもらい、社員研修であったので50名くらいの方に聞いてもらえた。男女共同参画については、プランの概要版で15分間ほど説明し、企業でもこういった取り組みをしていただくとありがたいというお願いをした。あちらからの意見や取り組み状況を聞いてくる場ではなかったが、男女共同参画の出前講座もあるのでという案内をし、男女共同参画の市政番組のDVDを社内研修で使って下さいと置いてきた。ついでに説明をしてきたというものだが、機会のあるごとに企業へ説明をしてこようと思う。現時点では2件である。

- 会長：市政番組の反響は多かった。中には7回も見たという方もあったが、そう言ってもらった際には、22時の放送があるので一人ではなくて家族中で見てと話をした。番組で言っていたような社会になればいいわね、というような感想を聞いた。私の周りでの反響は大きかった。
- 委員：広報で特集された時に、明智町の山田翔愛くんのご家族が大きな写真で載っていて、それですいぶん子供達が興味を持ってどういう意味なのという風に聞いたり、職員の方々も広報に載っている事を宣伝して下さっていた。今日、ファミリーサポートのパンフレットを先生が子供達に配っていて、以前と比べるとそういった啓発は広がっているというか関心を持ってきている。それは、やはり身近な人が取り上げられて特集で載っているという所から入っていくので、難しい文書だけの紹介ではなく、自分の身近な方の特集をどんどん出して頂くといいと思う。
- 委員：ちょっとずれるかもしれないが、男女共同参画は家庭の中に奥さんとご主人がいてという家庭だと役割分担というのもすごくよく分かるのだが、今は一人親の家庭や一人世帯がとても増えている、そういう方々はそんな事言っていられない。一人で生活を支えて家の中のこともするという家庭がだいぶ増えているような気がしているので、そういう方のフォローはどういう風にしたらいいのかと考えた事が少しあった。そういう人からすれば、何を甘い事を言っているのと言われそうな感じはすごくする。私はまだ主人もいるし、二人で暮らしているとどうしても目に見えない役割分担が出来てくるが、何が一番問題かと言うと女性が進出できないという事よりも女性が逃げてしまうという事だと思う。面倒くさい事は男の人にやらせておいて女の人は適当にという事があると思うので、その意識を、男性が出さないというだけの話ではなく女性が出て行きたがらないという意識もすごくあるのでそこをどうにかしないといけない。
- 会長：どうしても女性が遠慮してしまう。遠慮という言葉は聞こえがいいけれど、逃げてしまう。そうではなくて、声をかけられたら出るという事が大切。

- 委員：市の話ばかりではいけないが、今年度の人事異動で女性の役職登用率は前回から上がっているか。
- 事務局：課長級の女性においては2名が昇格し退職者がいないため、登用率は上がっている。数値では確認できていない。
- 事務局：今年の特徴だが、一昨年から係長になるにあたって昇任試験制度を取り入れていて、去年までは合格者の一部が係長になるという仕組みだったが、今年度は合格者のほぼ全員が係長に昇任した。これは男女ともに。なので、登用率は上がってきているし、試験を受けなければいけないが、そういうチャンスは恵那市役所では確立できた。
- 会長：昨年度、男女共同参画の職員研修で話をしたが、私が市役所にいる頃は、女性の係長は数人しかいなかったし課長は1人もいなかった。そういう中では、係員は男の係長に仕えたいが女の係長には仕えたくないというような感覚だった。今はそうではなくて試験を受ければなれる。昔と比べるとずいぶん改善されているので、目の前にある試験を受けないなんていう事はないという話をした。まだまだ、試験を受けて係長や課長補佐になってえらい思いをしたくないという気持ちが市役所だけでなく、色々な所で各役職に就く前にはあると思う。そういう所から直していかないと真の男女共同参画は進まないと思う。条件を整備しながら、もっと底辺から男女共同参画を考えていかないといけないと思う。
- 委員：先ほど高齢者は置いといてというようなお話もありましたが、介護の問題、老々介護では介護をしている方の人権にまで、幸せに暮らせるはずの残りの人生まで介護になってしまう。田舎は都会よりもまだそういう制度を活用できているかもしれないが、もしもそこに漏れるような人があってはならないと思うので、それを平等にという意識が高齢の方にも伝わってほしいと思う。子育ての方では浸透ってきていて、ファミリーサポートなどはチャンスがあれば抵抗なく利用できる、制度を受け入れる気持ちがあると思う。これも教育の結果だと思うけれど、やはり戦前の教育のところは言ってあげないと可愛そうだと思うので努力が必要かと思う。もう一つは、やはり男女共同「参画」なので、市が設置する審議会・委員会の女性登用率は気になっているが、落ちているということは明らかであって気になるので何とかして上げていきたいと思う。
- 委員：民生委員の中で各地区の会長が月に1回集まって理事会を開くが、3月の終わりに民生委員に女性の方を登用したいという話があった。市からも話があったからだと思う。しかし、出てきた女性が割と少なかったので何人かにどうですかという話があったけれど誰も手を上げなかった。そこで、私は男女共同参画委員になっていてになっていて、そういうところから女性の方が出ただけだとありがたいで

すという話をちょっとさせてもらった。その後、会長がこういった事もふまえて女性が出ていく立場をつくれればいいんじゃないか、是非やって下さいという話をしたのだが、結果的にはみなさん辞退されてしまった。家庭の事もあるし、孫の面倒も見なければいけないしという事で。あれは、非常に残念であった。そういう時に女性が出られる立場になっていると非常にうれしいんじゃないかと思った。そうしたら今回、5月1日号の広報に子育ての特集が載っていた。これはとても良い事であって、こういった機会があればもっと女性が表へ出られたり、就労面では自分で起業して働くことができるんじゃないかと思う。

そういった事も踏まえて、先日の老人会などでも、じいちゃん・ばあちゃんは知恵の塊である、昔のじいちゃん・ばあちゃんはおせっかいで隣の家の子でも叱った。今は、こちらが正しくても逆にその親から何か言われるということもあるが、こういった形が出てくればもっといいのではないかと思うし、せめてそういった会合の中で女性にこういう委員をやって頂きたいのですがと言った時に手を挙げられる雰囲気をつくっていくという事が大事だと思った。これを期待して見ている。

- 委員：先ほどから話を聞いていて、私の家の事を考えていたが、私の家は主人が戦後少しの生まれで60代だが、男女共同参画なんてという男性だ。でも、息子の代になってくると30代だが、全然違って、ご飯の後片付けなんかも率先してやっていて、本当に二人で子育てをしているという。別に、言ったわけではないが社会がそのようになっているというか。それを見て主人が、ああそうかという感じで、一緒に生活していくのであったらそうやって助け合わなければいけないんだなあというのを見ると、言っても駄目だが、若い人がそのようにやっていると、ああそうだなあと気づいてやってくれるところもある。それで、先ほどの切り捨ての話ではないが、年代によって時代の考え方があるのでそれを変えるのは難しいし、それだけにしてしまうのは無駄だと思う。それで、今必要な人達にターゲットを絞ってやっていけば必要であったらそうなるだろうなというように思った。先ほども話にあったが、この中でも緊急性の高いこと、すぐにでも取り組めることはすぐに取り組んでいった方がいいと思う。お金や時間がかかるというものでなくて簡単にできることもある。例えば、国際交流関係でいえば病院の間診票のふりがな。先日、病院へ行ったが一番最初に出てくる間診票が既に漢字で書いてある。外国人が行くと全く分からない。それにふりがな表記があれば自分で調べることができる。そういうことは特別お金をかけなくてもできる。それに1度作っておけばずっと使えるので、すぐできることから取り組んでいったらいいと思う。お金がかかる事とかからない事を振り分けてできるところからやっていく。また、間診票も多言語のものが必要であったら他市のものを取り入れてやることもできる。そういう情報はお渡しして

いるのでそういう事を、委員は具体化できないので、実際に実施できる所で具体化して行って頂きたい。やはり、こういう風にしようと思ったらそれが市民に実際に目に見える形で変わることがあると社会が進んでいるなというのが分かるけれども、いくらここで数字を出してもそれが市民にとって実感していないとこの席は無駄になってしまうと思うので、ここで話し合ったことが実際に具現化される。そのためには各機関が連携してそれを伝えていく必要があるし、必要があればそれらが合併して企画をやっていくとか、具現化には連携が必要だと思う。

- 委員：企業という立場から言うと、昨年度に女性活躍推進法ができて目標値なんかを立てたが、実際には昨年一年間、会社として例えば女性の役職登用とか職域の拡大とかは、目標を立ててもなかなか市役所のようにできなくて、どうしても今まで男性がやってきた仕事は、女性の方もそれはちょっと、汚れるのもいやだしというところもあったりだとか、リーダーになるにしても面倒だし色々言われるのもいやだしというところで、やっぱり女性の気持ちも変わっていかないと難しいのではないかなと思う。

もう一つ、先ほど高齢者の方は昔の教育でという事をおっしゃられたが、実際に私より若い管理職の人達であっても、40代後半から50代の方であっても女の人だから可哀そうやらという言い方をして最初から除いてしまうというところがある。それは、女性がそう言ってもないのにいつも思っていて、なので、そうなのかなと私は言うが、普段女性の逃げ腰なところを見ているものだからなかなかそれが会社の中でうまく進めていけなかったという所があって、それこそ出前講座をやって下さるという事なので、そういうのを管理職の人達、これから中核となる人達にやって頂ければなあというのを考えていた。なかなか、先ほどのノー残業デーとかそういうのをできない状況で、職場によって時間がまちまちでというところで更に時間を使って家へ帰れないという言い方をされる方もあるので。なかなかそういうのが取り入れられなくて難しいなあというのを思う。ただ、会社内の教育制度を充実させなければというところで、そちらもやっているが、基本的に働くという事は自分の人生のために働いているわけなので、その所を考えるという事で市にも協力して頂いて進めていきたいと思っている。

- 委員：私達が市役所に行く時は、振興事務所へ行くことが多い。そうすると話が通じないことがある。特に男女共同参画については、4月になると人事異動があるので、そういった時に一番困るのはお年寄りだと思う。こないだまでの人がいないから聞くに聞けないとかなるんだけど、色々あるから何かあると聞きに行くのだけれども、そういう時は一緒に行ってあげてこーだよ、あーだよと手を取ってあげなければいけないということもある。ただ、一番山岡でいいと思うのは、中学生の消防の

訓練があるのだが、それは男女だけでなく婦人ばかりで中学生の生徒達にいざという時に教室から外に出たりそういう細かい事をやる時に教えてあげられるのは、男性より女性だという事を先生がおっしゃって下さるので、そういう時は女性を3、4人呼んでいただいて生徒と話をしたりしてやる。

結局、問題は4月の人事異動で変わったときだと思う。お年寄りが行ったときに分からない事があつたらすぐに手を打って何かをしてあげる、そういうことがやってもらえるとすごくいいなあということがこのところある。毎年4月になるとそういう事があるので男女共同参画だけでなく、細かなそういう事を恵那市の本庁まで来なければ分からないという言い方をされてしまう事も結構あるので、そういう部分でお年寄りの人達に親切にしてほしいということをしてすごく感じる。男女共同参画とは少し違うかもしれないが、そういう細かい部分から広げていけるといいかなあと思う。

■委員：出前講座はどれくらいの時間でやるのか。

■事務局：時間は要相談となっているが、おおよそ1時間くらいから。

■委員：DVDはどれくらいか。

■事務局：DVDは15分間。

■委員：DVDがあれば、私は中野方不動滝やさいの会だが講習会の前にちょっとみんなに見て頂くとかいう事はできると思う。自分での説明は、ようやく分かり出したくらいなので難しい。そういうものがあつたら利用したいと思う。

先ほど〇〇委員が言われたように、高齢者の方は男女共同参画という言葉自体を知ってみえない、自分の生活がいっぱいいっぱい、ボランティアされるという側ではあってもするという事はないので。会長が言われたように、市役所の中でも女性の係長が4人しかいなかったという事だが、今は地域がそのような状態。地域の会議に行くと、高齢の代表者が多い、男の方が多い。私たち不動滝やさいの会も以前は女性の代表で出ていたが意見がなかなか通らない。よその団体の会長にちょっとばかにされる感じで・・・という事になったので、今は男性の代表を出している。けれど、会を支えているのは女性であって、会長はよく俺はただの置物やと言われるが私達はそうやって男性に出てもらった方が会としてはやりやすい。女の方がその場へ行ってものを言うてくるより予算も取りやすいしやりやすい。その代わり縁の下で働くという、地域がそういう雰囲気になってしまっているのですこのところを、地域の皆さんが男女共同参画という言葉をもっと理解して下さったら女性の方も出やすいと思う。私達は子育てしてきて、親の面倒を見て、やっとちょっと自由になりかけて社会へ出だしたかなというところ。そうすると、地域を支える働きでいっぱいというところがあるので、団体の人数が減ってきているし、高齢化にな

ってくる。しかし組織は存続しなくてはいけないという責任を持ってやっているので体がくたくたになってしまう。そうすると、夜出たくありませんという女性ばかりで、夜の会議には出たくないの、そういう事になると役を避けられる。地域で見ると、棚田保存会、杣組、まめくら、中野方アグリ、中野方不動滝やさいの会。だから、一番元気な子育てしている方達の悩みとか意見が、息子も外へ出ているので、全然分からない。どんな風に困っているのか、何を助けてほしいのか。時々友達の子孫が地域にいたりして話を聞いたりするが、自分もいっぱいやってるので、若い子から年配の方までが集まるそういう場が地域にあるといいかなと思いつつ聞いていた。

■委員：聞きながら、私は城下町ホットいわむらから来ているが、まちづくりに女性が少ない。同じ代の一緒にやってくれる女性が本当に欲しいなという事をいつも思うが、声をかけようにも会議は夜で、小学生・中学生のお子さんがみえると、ボランティアの団体の会議とか行事になかなか誘えないという現状がある。私は嫁に来た立場なので、地元のお母さん方がもう少し一緒にやろまいという風になってくれると本当にいいなあと思いつつ、困ったなあと思いつつ、そこそこの歳になってきたので、30代、40代くらいの若い人を巻き込みたいなあと思いつつ聞いている。

先ほど、息子さんが外に出てみえると伺ったが、うちも娘が三人いて長女が春から働き始めたが、外に出ている。大学の時から。次女も大学生で外へ出ていて、このまま戻って来ないだろうと思う。三女は高校を卒業して就職を希望しているが、遠くへ行きたいと本人は希望している。そうすると、いかに地元に残る子をつくっていくかということ。うすうす外へ出て行くんだろうなというのを感じながら後半の子育てをしていたが、魅力あるまちで、残りたいと思ったり、働きたいと思ったりしたときに、働く場所がなかったら結局は出て行ってしまうので、そういう所も含めていかに恵那の地に若い人達が残って子育ても含めて今後して欲しいなということ願いつつ聞いている。うちはそうはいかなかったなと思いつつ聞いていた。

■委員：恵南商工会という立場から言わせていただくと、大企業と全然違って家族の営業みたいな感じで、私達より上の年代は男女共同参画って何？こうこうこういう事だよと言うと、とろくさいと言うような感じで全然聞く耳を持たない。自分が、こうして直していこうという気が全然なくて、女性は縁の下の力持ちで、女の人は家において仕事していればいいやというようなイメージがすごく強い。年齢層を考えて、今の若い人達はやっぱりちゃんと心得てるというかどこで身に付けてきたのか分からないけれどちゃんと平等に子育てを手伝って家事も手伝ってという風でお互いに振り分けというか女性も外に出ず、男性も外に出ると言うような感じを見る。だから、中高年の教育をどうしたらいいのかと私も思っているが、昔の教育というのが

すごく染み付いているし私達自体も染み付いてしまっている。だから、その辺りのバランスが難しくて恵南商工会の女性部を勧誘に行ってもやっぱり役をやりたくない、夜出て行くことはあまりしたくないという風で女性の方も全部逃げるといのか入れないという感じだからこの問題はすごく難しいなあという実感がものすごく湧いている。

- 委員：うちの父が地域の公民館の掃除に行った時に、周りの奥さん方に男の人に掃除なんかに来てもらってもと言われたそうで、女の人もそういう意識があるのかなあと思った。雑仕事は女の人がやるものという意識が年配の女性にはあるのかと。
- 会長：時間配分の表をもらっているが、皆さんの意見を聞いてから今年の方角性やスケジュールを聞きたいと思ったので少し長くなった。次の議題に入る。

(2) 今年度の取り組みの方角性及びスケジュールについて【協議事項】

- 事務局：〔資料により説明〕
- 会長：今年の方角性とスケジュールを説明していただいたが、皆さんに色々なご意見をいただいたのでそういったものも含めながらご意見いただきたい。冒頭にも話したが、事務局が他の部署と連携しながら色々やって下さっているというのは、会議出席に係る託児事業も一つに入っています。こういったものがあることによって、若い男女や、お孫さんがある男女が委員会に出られるという環境をつくるという事が一つの大きな男女共同参画の元になるのではないかとこのところで、大変大事な事業を今回やっていただいた。これが、スムーズに運んでいければいいなど、色々な所で奪い合いになるぐらい活用していただけるようにPRをお願いします。

(3) (仮称) まちなか市女性起業ブースについて【協議事項】

- 事務局：〔資料により説明〕
- 会長：いかがか。初めての試みなのでどれだけ集まるかも分からないし心配な事がたくさんあるが、昨年の若者会議で参加者の方がこういった意見を行政の方の前で出されたという事があって、色々な物を作っているけれど出店する所がない、みんなに見てもらおう所がないという事だった。何かないだろうかという話があって、それを行政でこうやって形にさせていただいたわけだが、意見はないか。
- 委員：もう一度、ビジネスサポートセンターの説明をお願いします。
- 事務局：暮らすと働くのワンストップ窓口という事で市役所外の場所に設置する。中小企業・小規模事業者・個人・移住者が、例えば企業だと売り上げを増やしたいとか新商品を開発したいとか起業したいという希望、移住者だと住まいを見つけない、起業したい、新規就農したいという希望があると思う。そういったもののマッチン

グや支援をする場所ということで、暮らす事と働く事をセットで解決する場所を設置しようとしている。

それには現在、移住に特化したもので恵那くらしサポートセンターがあるが、そこと連携して移住・定住と働くことをセットで相談を受けるということだ。働く事については相談マネージャーを常駐させてその方が専門的な知識をもってサポートしていくというようなもの。まだ中身については詳しく決まっていない部分もあり、今年度のセミナー内容も確定していないところなので、逆にこういった女性の起業などについてのセミナーをやってくれないかという事で相談し、開催予定のうちの何回かをこちらで使わせてもらってやっていけたらと思っている。

- 委員：サポートセンターが講座をしてくれて、それに来る人は無料で受けられて、子どもがいる場合には託児もあるという事か。
- 事務局：託児はこの場所で設置するのかは決まっていないが、女性の起業に関するものについては託児もセットでやっていく必要があるかなと思っている。
- 会長：庁舎内ではなく、市役所とは別の所にできるのか。
- 事務局：はい。基本的に、土日に稼働しないと移住者や起業を考えている方に対応できない。現在、庁舎は土日に開庁していないし、皆さんが来やすい場所ということで公共施設では想定していない。
- 会長：市役所というと、なかなか相談に来にくいので他の所にあるとちょっと寄ってみようかなという事になると思う。
- 事務局：市役所も駅から離れているので、移住者の方で電車で来られる方みえる可能性があるのでやっぱり駅よりに寄りたい。これだけの距離だが、少しでも駅に寄りたいという所で色々探している。
- 委員：セミナーを7月に予定されているということは、何かでお知らせはしているのか。
- 事務局：セミナーは、8、9月になる見込み。7月1日号の広報で周知をし、メンバーが集まって10月までの間に開催したい。
- 委員：20、30、40代の女性はすごく元気だと思う。そういう方たちの目星はあるか。
- 事務局：商工課や商工会議所もそういう情報は持っていない。新聞でも取り上げられた5月6日に恵那峡の里で行われたBONDフェスへ、市内の20程度の団体・個人が出店していた。そういう方などからも情報を頂きながら、話をしていくしかないかと思っている。委員の皆さんからもそういった情報があればお願いしたい。
- 会長：若者会議で意見を出された方たちにも情報提供を依頼する。
- 委員：私は梅干し屋ですが、まちなか市にもう何年間も出させていただいている。先日の光秀まつりを見ていると、若い人が手作りのアクセサリーを売っていたりとい

うのがすごくたくさんあるので、こういう取り組みはすごく面白いのではないかなあと思う。ただ、作ったから売れましたというものではないのでとても難しいと思うが、回数を重ねていくと、こないだ見たときは買わなかったけれど、次に行ったら買おうかなというのは期待できる。私も、出して一番最初は全然売れなかった、誰も知らなかったが、出し続けていくうちに知っている人も増えるし、物がよければリピーターも来ていただけるので、それで生活するということまでいくのはとても大変だとは思いますが足がかりとしてとても面白いのではないかなあと思った。まちなか市は天気にもよるが人出も多いので結構いいのではないかなあと思う。

- 委員：一つ要望がある。前にも提案したが、まちなか市はもちろんいいと思うが、せっかく恵那峡に昔のにぎわいを取り戻したいと金をかけて改修している。何年計画だったか。
- 事務局：5年計画。来年までの事業であったと思う。
- 委員：せっかくそういう所にお金をかけるのであれば、そういう所を使ってみるのも一つの手ではないだろうかと思う。前回も話したが、駒ヶ根へ行った際に岩村の方がそういったブースを出しに来ていた。そこで話をしたら、なかなか恵那市の中ではそういう機会がないから、インターネットで調べてそういう所に来てやっているという事であった。青森のような遠くから来ている方もあった。そういった事が、若い女性にとって手作りをやって家に飾ってあるのではなくて作った物をみんなに見てもらいたい。それがビジネスにつながる可能性もあるということ、それから友達が増えるということ、そうすると女性を引き寄せることもできる。そんな事を、その岩村の方は言ってみえた。これはいい考えだなと思ったので、そういった事をやってみたらどうですかと前回私がちょっと話したと思う。それから、まちづくりの中でもそういった話をさせていただいた。まちなかも大事だが、ああいった恵那峡の観光地なども使ったら非常にいいのではないかなあと思うし、多分、旧の恵那郡の中でもそういったことを密かにやっている方がみえるのではないかなあと思う。そういった人達に、できればそういったセミナーを開いてもらって参加してもらって、やろうとするにはどうしたらいいかという事をアピールできるなら、恵那市の発展にもなると思うし、若い女性が増えれば子どもも増えると思う。そういう方向に向けていけたら非常にいいんじゃないかなあと思っている。
- 委員：少し宣伝だが、5月28日に中央図書館で開館後初めて図書館マルシェという、そういう方に対し出店料なしで図書館の敷地内にブースを出すという事を考えている。もしそういう方がみえたらお声掛け頂きたいと思う。
- 委員：まちなか市は託児もあるのか。
- 委員：まちなか市は、みんな子どもを連れてくる。

- 委員：まちなか市の起業のブースに付随して、今度はまちなか市に出店したときに託児はどうなるのかといったところがどうなのかなあと少し思ったので。
- 事務局：その辺りは少し検討させてほしい。今回の起業ブースは取っ掛かりの話なので。私は以前、商工観光課で商工担当でまちなか市をずっとやっていて、どういう雰囲気になりそうか分かっていたし、今から始めるとぶつけるのは10月くらいしかできないだろうという中で逆算して決めた。ここにあるように、起業というのが一番のテーマとしてあるが、託児については既にこれまで出店している趣味の域を少し超えたような方がみえる。そういう方もある中で、この調整というか線引きがどこまでできるかが分からない。今日ここで皆様方にこの方向性を認めて頂ければ、明日、商工課と打合せすることになっているので、その辺りの子どもさん達を連れて来てみえるかとか、どういう風にみてもらっているか、そういう所も確認しながら検討させてもらいたい。
- 会長：三郷でも毎年2回軽トラ市をやるが、1日で700人ぐらい人が来る。小物を出店する方は若い人が多いので子どもを連れてやっている。子ども同士もそこで友達になって遊んでいるので子ども連れというのもいいかもしれないし、せっかくここがビジネスセミナーをやって出店をするところまで持っていけば、子どもの見守りも少しは手伝いができるといいのかなという事もある。その辺りは、他の出店者とあまりちぐはぐになってもいけないので相談されて進めていただきたい。
- 委員：みのじのみりの祭のフリーマーケットで自分達で作ったものを出している人達がいる。外国人の方でも小物づくりが趣味でそれをインターネットオークションで売っているけれども、それを実際に出店してやりたいという人達もいる。そういう人達が自分で出来ないのということで、先日私が仲介したが、そうやってフリーマーケットを出して色々な人と話をするのが楽しいというように言っていたので、それは社会の中に入っていく一つのプロセスになるのでとてもいいなあとと思った。
- 会長：ぜひそういった方にもお口添えしていただいて、一人でも多くの方がこのセミナーを受けて出店できるようになっていくといいと思う。

(4) その他

- 事務局：〔第2回推進委員会の開催について〕

次回の推進委員会は7月頃を予定として、会長と相談し開催を通知する。

6. 閉会

- 会長：第2回は7月頃ということで、その頃にはまた細かなことが決まってくると思う。色々な取り組みが進んでいると思うので期待をしながら次の会議を待ちたい。

本日は、皆さんの忌憚のないご意見を頂いてお一人お一人の思いを伝えていただけたと思う。これを事務局でまとめていただいてこういった意見を入れながら、平成29年度も進んでいけたらいいと思う。本日はありがとうございました。